【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	2022年3月24日提出
【計算期間】	第2期中(自 2021年6月29日至 2021年12月28日)
【ファンド名】	マイターゲット２０６５（確定拠出年金向け）
【発行者名】	野村アセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	ＣＥＯ兼代表取締役社長 小池　広靖
【本店の所在の場所】	東京都江東区豊洲二丁目２番１号
【事務連絡者氏名】	松井　秀仁
【連絡場所】	東京都江東区豊洲二丁目２番１号
【電話番号】	03-6387-5000
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

１【ファンドの運用状況】

以下は2022年1月31日現在の運用状況であります。
また、投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

（１）【投資状況】

マイターゲット２０６５（確定拠出年金向け）

資産の種類	国／地域	時価合計（円）	投資比率（%）
親投資信託受益証券	日本	408,693,047	99.90
現金・預金・その他資産（負債控除後）	―	405,709	0.09
合計（純資産総額）		409,098,756	100.00

（参考）国内株式マザーファンド

資産の種類	国／地域	時価合計（円）	投資比率（%）
株式	日本	400,793,924,440	97.56
現金・預金・その他資産（負債控除後）	―	10,015,136,030	2.43
合計（純資産総額）		410,809,060,470	100.00

その他の資産の投資状況

※その他の資産として、下記の通り先物取引を利用しています。
　評価にあたっては知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場で評価しております。

資産の種類	建別	国／地域	時価合計（円）	投資比率（%）
株価指数先物取引	買建	日本	10,005,095,000	2.43

（参考）外国株式ＭＳＣＩ－ＫＯＫＵＳＡＩマザーファンド

資産の種類	国／地域	時価合計（円）	投資比率（%）
株式	アメリカ	820,197,715,107	70.50
	カナダ	41,607,112,671	3.57
	ドイツ	30,653,715,831	2.63
	イタリア	8,520,528,441	0.73
	フランス	39,196,074,012	3.36
	オランダ	15,993,815,240	1.37
	スペイン	8,025,610,666	0.68
	ベルギー	2,820,278,663	0.24
	オーストリア	841,887,482	0.07
	ルクセンブルグ	416,643,280	0.03

	フィンランド	3,454,401,089	0.29
	アイルランド	2,328,983,635	0.20
	ポルトガル	681,522,699	0.05
	イギリス	53,190,919,528	4.57
	スイス	34,967,245,832	3.00
	スウェーデン	12,688,961,378	1.09
	ノルウェー	2,392,712,922	0.20
	デンマーク	8,507,012,832	0.73
	オーストラリア	21,482,312,261	1.84
	ニュージーランド	645,025,484	0.05
	香港	9,245,502,733	0.79
	シンガポール	3,472,654,568	0.29
	イスラエル	1,494,612,400	0.12
	小計	1,122,825,248,754	96.51
投資証券	アメリカ	23,249,187,786	1.99
	カナダ	129,377,387	0.01
	フランス	529,473,340	0.04
	イギリス	729,936,159	0.06
	オーストラリア	1,570,777,601	0.13
	香港	441,463,885	0.03
	シンガポール	436,296,402	0.03
	小計	27,086,512,560	2.32
現金・預金・その他資産（負債控除後）	―	13,418,338,132	1.15
合計（純資産総額）		1,163,330,099,446	100.00

その他の資産の投資状況

※その他の資産として、下記の通り先物取引を利用しています。
　評価にあたっては知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場で評価しております。

資産の種類	建別	国／地域	時価合計（円）	投資比率（%）
株価指数先物取引	買建	アメリカ	9,650,717,622	0.82
	買建	カナダ	476,922,390	0.04
	買建	ドイツ	1,300,900,551	0.11
	買建	イギリス	596,207,324	0.05
	買建	スイス	401,358,240	0.03
	買建	オーストラリア	279,175,680	0.02

（参考）国内債券ＮＯＭＵＲＡ－ＢＰＩ総合　マザーファンド

資産の種類	国／地域	時価合計（円）	投資比率（%）
国債証券	日本	671,098,668,750	79.94
地方債証券	日本	56,808,960,703	6.76

特殊債券	日本	63,494,882,823	7.56
社債券	日本	39,615,703,850	4.71
現金・預金・その他資産（負債控除後）	―	8,468,733,633	1.00
合計（純資産総額）		839,486,949,759	100.00

（参考）外国債券マザーファンド

資産の種類	国／地域	時価合計（円）	投資比率（%）
国債証券	アメリカ	297,847,415,203	47.29
	カナダ	12,466,228,377	1.97
	メキシコ	4,453,867,756	0.70
	ドイツ	39,828,074,462	6.32
	イタリア	59,056,167,108	9.37
	フランス	54,902,025,115	8.71
	オランダ	9,610,030,559	1.52
	スペイン	40,274,989,728	6.39
	ベルギー	14,068,144,527	2.23
	オーストリア	8,526,940,958	1.35
	フィンランド	2,545,003,132	0.40
	アイルランド	8,548,694,868	1.35
	イギリス	36,623,734,033	5.81
	スウェーデン	1,723,910,823	0.27
	ノルウェー	1,503,233,155	0.23
	デンマーク	2,710,073,891	0.43
	ポーランド	3,077,048,568	0.48
	オーストラリア	9,833,732,838	1.56
	シンガポール	2,765,865,350	0.43
	マレーシア	3,081,819,575	0.48
	中国	5,665,259,578	0.89
	イスラエル	2,710,378,079	0.43
	小計	621,822,637,683	98.74
現金・預金・その他資産（負債控除後）	―	7,931,617,413	1.25
合計（純資産総額）		629,754,255,096	100.00

（２）【運用実績】

①【純資産の推移】

マイターゲット２０６５（確定拠出年金向け）

2022年1月末日及び同日前1年以内における各月末並びに下記決算期末の純資産の推移は次の通りです。
2022年1月末日及び同日前1年以内における各月末（設定来）並びに下記決算期末の純資産の推移は次の通りです。

	純資産総額（百万円）		1口当たり純資産額(円)	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
第1計算期間 (2021年 6月28日)	182	183	1.0625	1.0630
2021年 3月末日	96	―	1.0358	―
4月末日	128	―	1.0349	―
5月末日	164	―	1.0461	―
6月末日	184	―	1.0574	―
7月末日	222	―	1.0522	―
8月末日	246	―	1.0731	―
9月末日	305	―	1.0862	―
10月末日	337	―	1.1009	―
11月末日	373	―	1.0807	―
12月末日	422	―	1.1087	―
2022年 1月末日	409	―	1.0614	―

②【分配の推移】

マイターゲット２０６５（確定拠出年金向け）

	計算期間	1口当たりの分配金
第1計算期間	2021年 3月 5日～2021年 6月28日	0.0005円

③【収益率の推移】

マイターゲット２０６５（確定拠出年金向け）

	計算期間	収益率
第1計算期間	2021年 3月 5日～2021年 6月28日	6.3%
第2期（中間期）	2021年 6月29日～2021年12月28日	4.6%

※各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じて得た数を記載しております。なお、小数点以下2桁目を四捨五入し、小数点以下1桁目まで表示しております。

２【設定及び解約の実績】

マイターゲット２０６５（確定拠出年金向け）

	計算期間	設定口数	解約口数	発行済み口数
第1計算期間	2021年 3月 5日～2021年 6月28日	215,229,669	43,006,747	172,222,922
第2期（中間期）	2021年 6月29日～2021年12月28日	282,499,556	80,295,600	374,426,878

※本邦外における設定及び解約の実績はありません。

３【ファンドの経理状況】

(１)当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)(以下「中間財務諸表等規則」という。)ならびに同規則第38条の3および第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)(以下「投資信託財産計算規則」という。)に基づいて作成しております。なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(２)当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2期中間計算期間(2021年6月29日から2021年12月28日まで)の中間財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による中間監査を受けております。

【マイターゲット２０６５（確定拠出年金向け）】

（１）【中間貸借対照表】

（単位：円）

	第1期 (2021年 6月28日現在)	第2期中間計算期間末 (2021年12月28日現在)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	2,945,041	2,246,586
親投資信託受益証券	182,799,777	415,637,241
未収入金	-	173,625
流動資産合計	185,744,818	418,057,452
資産合計	185,744,818	418,057,452
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	86,111	-
未払解約金	2,528,174	1,418,544
未払受託者報酬	16,579	64,943
未払委託者報酬	132,613	519,498
未払利息	2	-
その他未払費用	1,216	4,810
流動負債合計	2,764,695	2,007,795
負債合計	2,764,695	2,007,795
純資産の部		
元本等		
元本	172,222,922	374,426,878
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金（△）	10,757,201	41,622,779
（分配準備積立金）	4,147,277	3,091,277
元本等合計	182,980,123	416,049,657
純資産合計	182,980,123	416,049,657
負債純資産合計	185,744,818	418,057,452

（２）【中間損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第2期中間計算期間 自　2021年 6月29日 至　2021年12月28日
営業収益	
有価証券売買等損益	14,197,895
営業収益合計	14,197,895
営業費用	
支払利息	117
受託者報酬	64,943
委託者報酬	519,498
その他費用	4,810
営業費用合計	589,368
営業利益又は営業損失（△）	13,608,527
経常利益又は経常損失（△）	13,608,527
中間純利益又は中間純損失（△）	13,608,527
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（△）	1,037,007
期首剰余金又は期首欠損金（△）	10,757,201
剰余金増加額又は欠損金減少額	23,825,701
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	23,825,701
剰余金減少額又は欠損金増加額	5,531,643
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	5,531,643
分配金	-
中間剰余金又は中間欠損金（△）	41,622,779

（３）【中間注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

１.運用資産の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 基準価額で評価しております。
２.費用・収益の計上基準	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
３.金融商品の時価等に関する事項の補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。
４.その他	当ファンドの中間計算期間は、2021年 6月29日から2021年12月28日までとなっております。

（中間貸借対照表に関する注記）

第1期 2021年 6月28日現在	第2期中間計算期間末 2021年12月28日現在
１． 計算期間の末日における受益権の総数 172,222,922口	１． 中間計算期間の末日における受益権の総数 374,426,878口
２． 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 1.0625円 (10,000口当たり純資産額) (10,625円)	２． 中間計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 1.1112円 (10,000口当たり純資産額) (11,112円)

（中間損益及び剰余金計算書に関する注記）

第2期中間計算期間 自 2021年 6月29日 至 2021年12月28日
１.追加情報 2016年1月29日の日本銀行による「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」の導入発表後、国内短期金融市場では利回り水準が低下しております。この影響により、利息に相当する額を当ファンドが実質的に負担する場合には受取利息のマイナスまたは支払利息として表示しております。

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

第1期 2021年 6月28日現在	第2期中間計算期間末 2021年12月28日現在
１．貸借対照表計上額、時価及び差額	１．中間貸借対照表計上額、時価及び差額

貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。 2．時価の算定方法 親投資信託受益証券 （重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	中間貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありません。 2．時価の算定方法 親投資信託受益証券 （重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

（その他の注記）

1　元本の移動

第1期 自 2021年 3月 5日 至 2021年 6月28日		第2期中間計算期間 自 2021年 6月29日 至 2021年12月28日	
期首元本額	－円	期首元本額	172,222,922円
期中追加設定元本額	215,229,669円	期中追加設定元本額	282,499,556円
期中一部解約元本額	43,006,747円	期中一部解約元本額	80,295,600円

2　デリバティブ取引関係

該当事項はありません。

（参考）

当ファンドは「国内株式マザーファンド」、「外国株式ＭＳＣＩ－ＫＯＫＵＳＡＩマザーファンド」、「国内債券ＮＯＭＵＲＡ－ＢＰＩ総合　マザーファンド」および「外国債券マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された親投資信託受益証券は、すべて同親投資信託の受益証券です。
なお、以下に記載した状況は監査の対象外となっております。

国内株式マザーファンド

貸借対照表

（単位：円）

	(2021年12月28日現在)
資産の部	
流動資産	
コール・ローン	12,778,643,008
株式	423,857,328,640
派生商品評価勘定	175,079,717
未収配当金	22,560,410
未収利息	548,967
その他未収収益	6,664,797
差入委託証拠金	133,759,903
流動資産合計	436,974,585,442

資産合計	436,974,585,442
負債の部	
流動負債	
派生商品評価勘定	370,990
未払解約金	365,215,610
未払利息	5,433
有価証券貸借取引受入金	6,232,414,053
流動負債合計	6,598,006,086
負債合計	6,598,006,086
純資産の部	
元本等	
元本	203,243,601,958
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金（△）	227,132,977,398
元本等合計	430,376,579,356
純資産合計	430,376,579,356
負債純資産合計	436,974,585,442

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1.運用資産の評価基準及び評価方法	株式 原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、市場価格のある有価証券についてはその最終相場(計算日に最終相場のない場合には、直近の日の最終相場)で評価しております。 先物取引 取引所の発表する計算日の清算値段を用いております。
2.費用・収益の計上基準	受取配当金 原則として配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。 投資信託受益証券については、原則として収益分配金落ち日において、当該収益分配金額を計上しております。 有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。 派生商品取引等損益 約定日基準で計上しております。
3.金融商品の時価等に関する事項の補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（貸借対照表に関する注記）

2021年12月28日現在	
1.　計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額	
1口当たり純資産額	2.1175円
(10,000口当たり純資産額)	(21,175円)
2.　有価証券の消費貸借契約により貸し付けた有価証券	
	5,973,101,690円

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

2021年12月28日現在
１．貸借対照表計上額、時価及び差額 貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。 ２．時価の算定方法 株式 （重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 派生商品評価勘定 先物取引 （重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

（その他の注記）
元本の移動及び期末元本額の内訳

2021年12月28日現在	
期首	2021年 6月29日
本報告書における開示対象ファンドの期首における当ファンドの元本額	192,743,078,784円
同期中における追加設定元本額	21,987,395,909円
同期中における一部解約元本額	11,486,872,735円
期末元本額	203,243,601,958円
期末元本額の内訳＊	
バランスセレクト３０	134,404,925円
バランスセレクト５０	306,987,495円
バランスセレクト７０	445,426,675円
野村世界６資産分散投信（安定コース）	2,290,656,476円
野村世界６資産分散投信（分配コース）	2,955,372,174円
野村世界６資産分散投信（成長コース）	7,980,757,559円
野村資産設計ファンド２０１５	38,034,804円
野村資産設計ファンド２０２０	38,030,236円
野村資産設計ファンド２０２５	68,940,302円
野村資産設計ファンド２０３０	98,409,124円
野村資産設計ファンド２０３５	84,004,580円
野村資産設計ファンド２０４０	160,368,838円
野村日本株インデックス（野村投資一任口座向け）	14,306,512,901円
のむラップ・ファンド（保守型）	2,396,072,217円
のむラップ・ファンド（普通型）	11,660,488,146円
のむラップ・ファンド（積極型）	3,928,445,431円
野村資産設計ファンド２０４５	29,214,386円
野村インデックスファンド・ＴＯＰＩＸ	2,076,583,659円
マイ・ロード	3,338,582,496円
ネクストコア	17,716,835円
野村インデックスファンド・内外７資産バランス・為替ヘッジ型	1,416,957,154円

野村ＴＯＰＩＸインデックス（野村ＳＭＡ・ＥＷ向け）	2,661,845,126円
野村世界６資産分散投信（配分変更コース）	1,455,847,051円
野村資産設計ファンド２０５０	39,154,133円
野村ターゲットデートファンド２０１６　２０２６－２０２８年目標型	12,670,623円
野村ターゲットデートファンド２０１６　２０２９－２０３１年目標型	6,768,344円
野村ターゲットデートファンド２０１６　２０３２－２０３４年目標型	5,284,643円
野村ターゲットデートファンド２０１６　２０３５－２０３７年目標型	4,377,793円
のむラップ・ファンド（やや保守型）	389,576,876円
のむラップ・ファンド（やや積極型）	566,430,591円
インデックス・ブレンド（タイプⅠ）	3,145,052円
インデックス・ブレンド（タイプⅡ）	3,331,820円
インデックス・ブレンド（タイプⅢ）	23,962,976円
インデックス・ブレンド（タイプⅣ）	6,539,759円
インデックス・ブレンド（タイプⅤ）	28,886,925円
野村６資産均等バランス	2,539,121,077円
世界６資産分散ファンド	79,178,408円
野村資産設計ファンド２０６０	25,576,310円
ファンドラップ（ウエルス・スクエア）日本株式	1,392,987,511円
グローバル・インデックス・バランス２５ＶＡ（適格機関投資家専用）	298,801,683円
グローバル・インデックス・バランス５０ＶＡ（適格機関投資家専用）	144,459,380円
グローバル・インデックス・バランス４０ＶＡ（適格機関投資家専用）	458,747,633円
グローバル・インデックス・バランス６０ＶＡ（適格機関投資家専用）	391,780,811円
ワールド・インデックス・ファンドＶＡ安定型（適格機関投資家専用）	2,872,101円
ワールド・インデックス・ファンドＶＡバランス型（適格機関投資家専用）	8,289,771円
ワールド・インデックス・ファンドＶＡ積極型（適格機関投資家専用）	1,135,765円
野村インデックス・バランス６０ＶＡ（適格機関投資家専用）	2,378,282,623円
野村ワールド・インデックス・バランス３５ＶＡ（適格機関投資家専用）	6,047,310円
野村ワールド・インデックス・バランス５０ＶＡ（適格機関投資家専用）	61,960,809円
野村・国内株式インデックスファンド・ＶＡＳ（適格機関投資家専用）	62,211,350円
野村世界インデックス・バランス４０ＶＡ（適格機関投資家専用）	14,767,952円
野村グローバル・インデックス・バランス２５ＶＡ（適格機関投資家専用）	91,942,959円
野村グローバル・インデックス・バランス５０ＶＡ（適格機関投資家専用）	197,191,947円
野村グローバル・インデックス・バランス７５ＶＡ（適格機関投資家専用）	4,304,287,526円
野村世界バランス２５ＶＡ（適格機関投資家専用）	47,217,150円
ノムラ日本株式インデックスファンドＶＡ（適格機関投資家専用）	348,530,474円
ノムラＦＯＦｓ用インデックスファンド・ＴＯＰＩＸ（適格機関投資家専用）	1,753,591,531円
野村国内外マルチアセット（６資産）ファンド（適格機関投資家専用）	161,618,213円
野村国内外マルチアセット（６資産）オープン投信（適格機関投資家専用）	84,780,816円
野村ＦＯＦｓ用・ターゲット・リターン・８資産バランス（２％コース向け）（適格機関投資家専用）	2,509,913円
バランスセレクト３０（確定拠出年金向け）	6,088,881円
バランスセレクト５０（確定拠出年金向け）	28,412,511円
バランスセレクト７０（確定拠出年金向け）	33,711,639円
国内債券・株式バランスファンド（確定拠出年金向け）	116,406,801円
マイバランス３０（確定拠出年金向け）	8,961,505,923円
マイバランス５０（確定拠出年金向け）	25,048,880,345円
マイバランス７０（確定拠出年金向け）	28,953,530,323円
野村国内株式インデックスファンド・ＴＯＰＩＸ（確定拠出年金向け）	34,643,429,422円

マイバランスＤＣ３０	3,321,799,936円
マイバランスＤＣ５０	5,632,451,613円
マイバランスＤＣ７０	5,896,495,254円
野村ＤＣ国内株式インデックスファンド・ＴＯＰＩＸ	10,818,711,798円
野村ＤＣ運用戦略ファンド	455,732,390円
野村ＤＣ運用戦略ファンド（マイルド）	38,778,197円
マイターゲット２０５０（確定拠出年金向け）	1,359,077,912円
マイターゲット２０３０（確定拠出年金向け）	1,106,374,798円
マイターゲット２０４０（確定拠出年金向け）	975,398,373円
野村世界６資産分散投信（ＤＣ）安定コース	11,556,693円
野村世界６資産分散投信（ＤＣ）インカムコース	5,192,340円
野村世界６資産分散投信（ＤＣ）成長コース	84,758,917円
野村資産設計ファンド（ＤＣ・つみたてＮＩＳＡ）２０３０	25,667,903円
野村資産設計ファンド（ＤＣ・つみたてＮＩＳＡ）２０４０	22,390,210円
野村資産設計ファンド（ＤＣ・つみたてＮＩＳＡ）２０５０	17,700,560円
マイターゲット２０３５（確定拠出年金向け）	498,819,349円
マイターゲット２０４５（確定拠出年金向け）	422,129,175円
マイターゲット２０５５（確定拠出年金向け）	268,194,460円
マイターゲット２０６０（確定拠出年金向け）	382,759,421円
野村資産設計ファンド（ＤＣ・つみたてＮＩＳＡ）２０６０	12,597,787円
マイターゲット２０６５（確定拠出年金向け）	89,318,676円
多資産分散投資ファンド（バランス１０）（確定拠出年金向け）	168,021,845円
みらいバランス・株式１０（富士通企業年金基金ＤＣ向け）	29,358円

＊は当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

外国株式ＭＳＣＩ－ＫＯＫＵＳＡＩマザーファンド

貸借対照表

（単位：円）

	(2021年12月28日現在)
資産の部	
流動資産	
預金	12,935,272,430
コール・ローン	284,820,802
株式	1,184,291,157,759
投資証券	28,626,089,429
派生商品評価勘定	528,554,039
未収入金	9,517,626
未収配当金	851,267,370
差入委託証拠金	7,077,264,510
流動資産合計	1,234,603,943,965
資産合計	1,234,603,943,965
負債の部	
流動負債	
派生商品評価勘定	214,830
未払解約金	213,564,161
未払利息	121
その他未払費用	3,272,200
流動負債合計	217,051,312
負債合計	217,051,312

	(2021年12月28日現在)
純資産の部	
元本等	
元本	266,074,477,327
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金（△）	968,312,415,326
元本等合計	1,234,386,892,653
純資産合計	1,234,386,892,653
負債純資産合計	1,234,603,943,965

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1.運用資産の評価基準及び評価方法	株式 原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、市場価格のある有価証券についてはその最終相場(計算日に最終相場のない場合には、直近の日の最終相場)で評価しております。 投資証券 原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、市場価格のある有価証券についてはその最終相場(計算日に最終相場のない場合には、直近の日の最終相場)で評価しております。 先物取引 計算日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場で評価しております。 為替予約取引 計算日において予約為替の受渡日の対顧客先物相場の仲値で評価しております。
2.外貨建資産・負債の本邦通貨への換算基準	信託財産に属する外貨建資産・負債の円換算は、原則として、わが国における計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算しております。
3.費用・収益の計上基準	受取配当金 原則として配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。 投資信託受益証券については、原則として収益分配金落ち日において、当該収益分配金額を計上しております。 有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。 派生商品取引等損益 約定日基準で計上しております。 為替差損益 約定日基準で計上しております。
4.金融商品の時価等に関する事項の補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（貸借対照表に関する注記）

2021年12月28日現在	
1.　計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額	
1口当たり純資産額	4.6393円
(10,000口当たり純資産額)	(46,393円)

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

2021年12月28日現在
１．貸借対照表計上額、時価及び差額 貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。 ２．時価の算定方法 株式 （重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 投資証券 （重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 派生商品評価勘定 先物取引 （重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 派生商品評価勘定 為替予約取引 １）計算日において対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については以下のように評価しております。 ①計算日において為替予約の受渡日(以下「当該日」といいます）の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。 ②計算日において当該日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。 ・計算日に当該日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。 ・計算日に当該日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物相場の仲値を用いております。 ２）計算日に対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、計算日の対顧客相場の仲値で評価しております。 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

（その他の注記）

元本の移動及び期末元本額の内訳

2021年12月28日現在	
期首	2021年 6月29日
本報告書における開示対象ファンドの期首における当ファンドの元本額	252,495,401,055円
同期中における追加設定元本額	26,145,974,195円
同期中における一部解約元本額	12,566,897,923円
期末元本額	266,074,477,327円
期末元本額の内訳＊	
バランスセレクト３０	30,873,638円
バランスセレクト５０	96,255,424円
バランスセレクト７０	115,520,877円
野村外国株式インデックスファンド	490,338,059円
野村世界６資産分散投信（安定コース）	3,133,752,224円
野村世界６資産分散投信（分配コース）	4,043,122,230円

野村世界６資産分散投信（成長コース）	3,639,381,328円
野村資産設計ファンド２０１５	9,885,645円
野村資産設計ファンド２０２０	9,885,236円
野村資産設計ファンド２０２５	17,964,615円
野村資産設計ファンド２０３０	25,744,100円
野村資産設計ファンド２０３５	21,939,874円
野村資産設計ファンド２０４０	42,087,698円
野村外国株インデックス　Ｂコース（野村投資一任口座向け）	45,351,317,747円
のむラップ・ファンド（保守型）	772,965,954円
のむラップ・ファンド（普通型）	8,817,304,985円
のむラップ・ファンド（積極型）	8,124,325,290円
野村資産設計ファンド２０４５	7,671,821円
野村インデックスファンド・外国株式	6,658,456,241円
マイ・ロード	945,646,944円
ネクストコア	8,730,620円
野村インデックスファンド・海外５資産バランス	133,893,976円
野村外国株インデックスＢコース（野村ＳＭＡ・ＥＷ向け）	2,101,963,249円
野村世界６資産分散投信（配分変更コース）	511,737,924円
野村資産設計ファンド２０５０	10,266,651円
野村ターゲットデートファンド２０１６　２０２６－２０２８年目標型	3,306,462円
野村ターゲットデートファンド２０１６　２０２９－２０３１年目標型	1,778,631円
野村ターゲットデートファンド２０１６　２０３２－２０３４年目標型	1,383,281円
野村ターゲットデートファンド２０１６　２０３５－２０３７年目標型	1,147,391円
のむラップ・ファンド（やや保守型）	203,333,809円
のむラップ・ファンド（やや積極型）	677,607,881円
インデックス・ブレンド（タイプⅠ）	3,080,828円
インデックス・ブレンド（タイプⅡ）	2,994,461円
インデックス・ブレンド（タイプⅢ）	32,802,445円
インデックス・ブレンド（タイプⅣ）	8,724,175円
インデックス・ブレンド（タイプⅤ）	39,319,153円
野村６資産均等バランス	1,157,888,829円
野村つみたて外国株投信	9,511,879,785円
野村外国株（含む新興国）インデックス　Ｂコース（野村投資一任口座向け）	4,656,057,817円
世界６資産分散ファンド	36,106,745円
野村資産設計ファンド２０６０	6,698,065円
野村スリーゼロ先進国株式投信	526,273,920円
ＮＥＸＴ　ＦＵＮＤＳ　外国株式・ＭＳＣＩ－ＫＯＫＵＳＡＩ指数（為替ヘッジなし）連動型上場投信	5,371,330,068円
ファンドラップ（ウエルス・スクエア）外国株式	4,462,827,738円
グローバル・インデックス・バランス２５ＶＡ（適格機関投資家専用）	136,261,001円
グローバル・インデックス・バランス５０ＶＡ（適格機関投資家専用）	65,876,074円
グローバル・インデックス・バランス４０ＶＡ（適格機関投資家専用）	630,376,638円
グローバル・インデックス・バランス６０ＶＡ（適格機関投資家専用）	897,236,742円
ワールド・インデックス・ファンドＶＡ安定型（適格機関投資家専用）	1,309,733円
ワールド・インデックス・ファンドＶＡバランス型（適格機関投資家専用）	4,620,327円
ワールド・インデックス・ファンドＶＡ積極型（適格機関投資家専用）	1,139,442円
野村ワールド・インデックス・バランス３５ＶＡ（適格機関投資家専用）	1,103,058円
野村ワールド・インデックス・バランス５０ＶＡ（適格機関投資家専用）	18,836,884円

野村外国株式インデックスファンド（適格機関投資家専用）	377,888,657円
野村世界インデックス・バランス４０ＶＡ（適格機関投資家専用）	5,050,821円
野村グローバル・インデックス・バランス２５ＶＡ（適格機関投資家専用）	27,949,380円
野村グローバル・インデックス・バランス５０ＶＡ（適格機関投資家専用）	89,922,878円
野村グローバル・インデックス・バランス７５ＶＡ（適格機関投資家専用）	2,243,232,771円
野村世界バランス２５ＶＡ（適格機関投資家専用）	21,531,865円
ノムラＦＯＦｓ用インデックスファンド・外国株式（適格機関投資家専用）	191,799,023円
野村ＦｏＦｓ用・外国株式ＭＳＣＩ－ＫＯＫＵＳＡＩインデックスファンド（適格機関投資家専用）	11,674,015,893円
野村ＦＯＦｓ用・ターゲット・リターン・８資産バランス（２％コース向け）（適格機関投資家専用）	1,144,532円
先進８ヵ国国債入替型プラス外国株式戦略２０オープン（部分為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）	4,487,122円
バランスセレクト３０（確定拠出年金向け）	1,401,616円
バランスセレクト５０（確定拠出年金向け）	8,841,006円
バランスセレクト７０（確定拠出年金向け）	8,644,754円
野村外国株式インデックスファンド・ＭＳＣＩ－ＫＯＫＵＳＡＩ（確定拠出年金向け）	83,284,219,172円
マイバランス３０（確定拠出年金向け）	2,064,059,949円
マイバランス５０（確定拠出年金向け）	7,698,968,032円
マイバランス７０（確定拠出年金向け）	7,380,261,652円
マイバランスＤＣ３０	761,711,429円
マイバランスＤＣ５０	1,730,429,872円
マイバランスＤＣ７０	1,521,901,721円
野村ＤＣ外国株式インデックスファンド・ＭＳＣＩ－ＫＯＫＵＳＡＩ	31,573,241,649円
野村ＤＣ運用戦略ファンド	233,234,694円
野村ＤＣ運用戦略ファンド（マイルド）	17,997,739円
マイターゲット２０５０（確定拠出年金向け）	359,766,648円
マイターゲット２０３０（確定拠出年金向け）	295,333,776円
マイターゲット２０４０（確定拠出年金向け）	283,527,937円
野村世界６資産分散投信（ＤＣ）安定コース	15,810,233円
野村世界６資産分散投信（ＤＣ）インカムコース	7,103,195円
野村世界６資産分散投信（ＤＣ）成長コース	38,651,721円
野村資産設計ファンド（ＤＣ・つみたてＮＩＳＡ）２０３０	6,715,012円
野村資産設計ファンド（ＤＣ・つみたてＮＩＳＡ）２０４０	5,876,175円
野村資産設計ファンド（ＤＣ・つみたてＮＩＳＡ）２０５０	4,641,286円
マイターゲット２０３５（確定拠出年金向け）	148,903,954円
マイターゲット２０４５（確定拠出年金向け）	116,728,207円
マイターゲット２０５５（確定拠出年金向け）	68,466,984円
マイターゲット２０６０（確定拠出年金向け）	96,969,211円
野村資産設計ファンド（ＤＣ・つみたてＮＩＳＡ）２０６０	3,299,178円
マイターゲット２０６５（確定拠出年金向け）	22,628,367円
多資産分散投資ファンド（バランス１０）（確定拠出年金向け）	95,776,560円
みらいバランス・株式１０（富士通企業年金基金ＤＣ向け）	8,923円

＊は当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

国内債券ＮＯＭＵＲＡ－ＢＰＩ総合　マザーファンド

貸借対照表

（単位：円）

	(2021年12月28日現在)
資産の部	
流動資産	
コール・ローン	5,996,364,036
国債証券	669,201,376,300
地方債証券	57,504,198,904
特殊債券	65,490,857,064
社債券	38,788,028,950
未収利息	1,028,186,620
前払費用	22,529,796
流動資産合計	838,031,541,670
資産合計	838,031,541,670
負債の部	
流動負債	
未払金	1,517,640,000
未払解約金	187,529,571
未払利息	2,549
流動負債合計	1,705,172,120
負債合計	1,705,172,120
純資産の部	
元本等	
元本	628,844,688,044
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金（△）	207,481,681,506
元本等合計	836,326,369,550
純資産合計	836,326,369,550
負債純資産合計	838,031,541,670

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

１.運用資産の評価基準及び評価方法	国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券 原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、価格情報会社の提供する価額等で評価しております。
２.費用・収益の計上基準	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
３.金融商品の時価等に関する事項の補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（貸借対照表に関する注記）

2021年12月28日現在	
１．　計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額	
1口当たり純資産額	1.3299円
(10,000口当たり純資産額)	(13,299円)

（金融商品に関する注記）
金融商品の時価等に関する事項

2021年12月28日現在
１．貸借対照表計上額、時価及び差額 貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。 ２．時価の算定方法 国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券 （重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

（その他の注記）
元本の移動及び期末元本額の内訳

2021年12月28日現在	
期首	2021年 6月29日
本報告書における開示対象ファンドの期首における当ファンドの元本額	588,738,897,689円
同期中における追加設定元本額	65,355,946,466円
同期中における一部解約元本額	25,250,156,111円
期末元本額	628,844,688,044円
期末元本額の内訳＊	
野村国内債券インデックスファンド	398,470,457円
野村世界６資産分散投信（安定コース）	42,045,151,365円
野村世界６資産分散投信（分配コース）	18,082,017,292円
野村世界６資産分散投信（成長コース）	3,487,794,020円
野村資産設計ファンド２０１５	349,048,325円
野村資産設計ファンド２０２０	349,022,554円
野村資産設計ファンド２０２５	361,540,929円
野村資産設計ファンド２０３０	293,099,979円
野村資産設計ファンド２０３５	157,695,030円
野村資産設計ファンド２０４０	210,252,052円
野村日本債券インデックスファンド	812,150,446円
野村日本債券インデックス（野村投資一任口座向け）	162,309,949,357円
のむラップ・ファンド（保守型）	15,045,585,655円
のむラップ・ファンド（普通型）	17,245,499,166円
のむラップ・ファンド（積極型）	2,542,437,457円
野村日本債券インデックス（野村ＳＭＡ向け）	10,249,251,689円
野村資産設計ファンド２０４５	24,654,281円
野村円債投資インデックスファンド	737,731,221円
野村インデックスファンド・国内債券	2,074,989,218円

2021年12月28日現在	
マイ・ロード	34,550,144,689円
野村インデックスファンド・内外７資産バランス・為替ヘッジ型	1,444,907,979円
野村日本債券インデックス（野村ＳＭＡ・ＥＷ向け）	20,998,304,185円
野村世界６資産分散投信（配分変更コース）	1,990,830,699円
野村資産設計ファンド２０５０	24,330,175円
野村ターゲットデートファンド２０１６　２０２６－２０２８年目標型	29,798,474円
野村ターゲットデートファンド２０１６　２０２９－２０３１年目標型	8,290,793円
野村ターゲットデートファンド２０１６　２０３２－２０３４年目標型	4,318,789円
野村ターゲットデートファンド２０１６　２０３５－２０３７年目標型	2,758,515円
のむラップ・ファンド（やや保守型）	1,290,016,185円
のむラップ・ファンド（やや積極型）	492,764,213円
インデックス・ブレンド（タイプⅠ）	61,267,879円
インデックス・ブレンド（タイプⅡ）	28,839,449円
インデックス・ブレンド（タイプⅢ）	122,881,660円
インデックス・ブレンド（タイプⅣ）	16,460,769円
インデックス・ブレンド（タイプⅤ）	15,209,389円
野村６資産均等バランス	3,883,812,140円
世界６資産分散ファンド	121,115,825円
野村資産設計ファンド２０６０	11,177,491円
ＮＥＸＴ　ＦＵＮＤＳ　国内債券・ＮＯＭＵＲＡ－ＢＰＩ総合連動型上場投信	34,336,975,526円
ファンドラップ（ウエルス・スクエア）債券・安定型	27,977,405,232円
グローバル・インデックス・バランス２５ＶＡ（適格機関投資家専用）	548,446,313円
グローバル・インデックス・バランス５０ＶＡ（適格機関投資家専用）	88,383,047円
グローバル・インデックス・バランス４０ＶＡ（適格機関投資家専用）	1,754,166,180円
グローバル・インデックス・バランス６０ＶＡ（適格機関投資家専用）	898,806,067円
ワールド・インデックス・ファンドＶＡ安定型（適格機関投資家専用）	16,112,223円
ワールド・インデックス・ファンドＶＡバランス型（適格機関投資家専用）	11,271,133円
ワールド・インデックス・ファンドＶＡ積極型（適格機関投資家専用）	694,936円
野村インデックス・バランス６０ＶＡ（適格機関投資家専用）	3,637,794,645円
野村ワールド・インデックス・バランス３５ＶＡ（適格機関投資家専用）	7,400,409円
野村ワールド・インデックス・バランス５０ＶＡ（適格機関投資家専用）	63,182,891円
野村世界インデックス・バランス４０ＶＡ（適格機関投資家専用）	45,175,937円
野村グローバル・インデックス・バランス２５ＶＡ（適格機関投資家専用）	375,034,814円
野村グローバル・インデックス・バランス５０ＶＡ（適格機関投資家専用）	301,622,438円
野村グローバル・インデックス・バランス７５ＶＡ（適格機関投資家専用）	940,628,287円
野村世界バランス２５ＶＡ（適格機関投資家専用）	144,461,470円
ノムラ日本債券インデックスファンドＶＡ（適格機関投資家専用）	1,838,244,101円
ノムラＦＯＦｓ用インデックスファンド・国内債券（適格機関投資家専用）	327,272,224円
野村ＦＯＦｓ用・ターゲット・リターン・８資産バランス（２％コース向け）（適格機関投資家専用）	15,355,542円
マイバランス３０（確定拠出年金向け）	38,483,827,250円
マイバランス５０（確定拠出年金向け）	51,494,330,468円
マイバランス７０（確定拠出年金向け）	19,934,839,336円

2021年12月28日現在	
野村国内債券インデックスファンド・ＮＯＭＵＲＡ－ＢＰＩ総合（確定拠出年金向け）	51,512,793,275円
マイバランスＤＣ３０	14,077,228,439円
マイバランスＤＣ５０	11,661,504,690円
マイバランスＤＣ７０	4,113,633,846円
野村ＤＣ国内債券インデックスファンド・ＮＯＭＵＲＡ－ＢＰＩ総合	13,296,590,981円
マイターゲット２０５０（確定拠出年金向け）	1,287,860,950円
マイターゲット２０３０（確定拠出年金向け）	3,315,805,425円
マイターゲット２０４０（確定拠出年金向け）	1,500,683,486円
野村世界６資産分散投信（ＤＣ）安定コース	212,123,877円
野村世界６資産分散投信（ＤＣ）インカムコース	31,766,713円
野村世界６資産分散投信（ＤＣ）成長コース	37,041,799円
野村資産設計ファンド（ＤＣ・つみたてＮＩＳＡ）２０３０	76,456,311円
野村資産設計ファンド（ＤＣ・つみたてＮＩＳＡ）２０４０	29,355,284円
野村資産設計ファンド（ＤＣ・つみたてＮＩＳＡ）２０５０	10,999,052円
マイターゲット２０３５（確定拠出年金向け）	996,402,854円
マイターゲット２０４５（確定拠出年金向け）	513,456,258円
マイターゲット２０５５（確定拠出年金向け）	193,538,376円
マイターゲット２０６０（確定拠出年金向け）	260,195,752円
野村資産設計ファンド（ＤＣ・つみたてＮＩＳＡ）２０６０	5,505,556円
マイターゲット２０６５（確定拠出年金向け）	60,720,376円
多資産分散投資ファンド（バランス１０）（確定拠出年金向け）	535,425,973円
みらいバランス・株式１０（富士通企業年金基金ＤＣ向け）	598,511円

＊は当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

外国債券マザーファンド

貸借対照表

（単位：円）

	(2021年12月28日現在)
資産の部	
流動資産	
預金	178,701,330
コール・ローン	1,231,260,628
国債証券	631,408,667,611
派生商品評価勘定	7,555,453
未収利息	5,585,487,883
前払費用	453,339,775
その他未収収益	18,471,166
流動資産合計	638,883,483,846
資産合計	638,883,483,846
負債の部	
流動負債	
未払金	904,416,465
未払解約金	49,317,830
未払利息	523
その他未払費用	7,372,900

流動負債合計	961,107,718
負債合計	961,107,718
純資産の部	
元本等	
元本	246,404,614,176
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金（△）	391,517,761,952
元本等合計	637,922,376,128
純資産合計	637,922,376,128
負債純資産合計	638,883,483,846

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1.運用資産の評価基準及び評価方法	国債証券 原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、価格情報会社の提供する価額等で評価しております。 為替予約取引 計算日において予約為替の受渡日の対顧客先物相場の仲値で評価しております。
2.外貨建資産・負債の本邦通貨への換算基準	信託財産に属する外貨建資産・負債の円換算は、原則として、わが国における計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算しております。
3.費用・収益の計上基準	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。 為替差損益 約定日基準で計上しております。
4.金融商品の時価等に関する事項の補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（貸借対照表に関する注記）

2021年12月28日現在	
1．　計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額	
1口当たり純資産額	2.5889円
(10,000口当たり純資産額)	(25,889円)
2．　有価証券の消費貸借契約により貸し付けた有価証券	225,837,069,808円
なお、上記の金額は利含み価格で表示しております。	
3．　自由処分権を有する担保受入金融資産の時価	
貸付有価証券の担保として受け入れている資産は次の通りであります。	
有価証券	236,466,729,052円
なお、上記の金額は利含み価格で表示しております。	

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

2021年12月28日現在
1．貸借対照表計上額、時価及び差額

貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。

２．時価の算定方法

国債証券

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。

派生商品評価勘定

為替予約取引

１）計算日において対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については以下のように評価しております。

①計算日において為替予約の受渡日(以下「当該日」といいます）の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

②計算日において当該日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

・計算日に当該日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。

・計算日に当該日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物相場の仲値を用いております。

２）計算日に対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、計算日の対顧客相場の仲値で評価しております。

コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務

これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

（その他の注記）

元本の移動及び期末元本額の内訳

2021年12月28日現在	
期首	2021年 6月29日
本報告書における開示対象ファンドの期首における当ファンドの元本額	232,381,378,877円
同期中における追加設定元本額	25,141,454,367円
同期中における一部解約元本額	11,118,219,068円
期末元本額	246,404,614,176円
期末元本額の内訳＊	
バランスセレクト３０	82,107,638円
バランスセレクト５０	83,706,608円
バランスセレクト７０	80,043,489円
野村外国債券インデックスファンド	274,536,243円
野村世界６資産分散投信（安定コース）	3,635,122,333円
野村世界６資産分散投信（分配コース）	23,449,913,878円
野村世界６資産分散投信（成長コース）	1,809,277,196円
野村資産設計ファンド２０１５	19,311,672円
野村資産設計ファンド２０２０	19,312,481円
野村資産設計ファンド２０２５	35,165,444円
野村資産設計ファンド２０３０	39,855,395円
野村資産設計ファンド２０３５	29,388,747円
野村資産設計ファンド２０４０	50,379,610円
野村外国債券インデックス　Ｂコース（野村投資一任口座向け）	74,369,150,322円
のむラップ・ファンド（保守型）	6,221,638,771円
のむラップ・ファンド（普通型）	18,991,827,681円
のむラップ・ファンド（積極型）	4,859,524,375円

野村外国債券インデックス（野村ＳＭＡ向け）	520,184,776円
野村資産設計ファンド２０４５	7,753,547円
野村インデックスファンド・外国債券	914,024,052円
マイ・ロード	9,093,472,093円
ネクストコア	198,983,320円
野村インデックスファンド・海外５資産バランス	232,929,423円
野村外国債券インデックスＢコース（野村ＳＭＡ・ＥＷ向け）	8,558,234,674円
野村世界６資産分散投信（配分変更コース）	1,127,026,673円
野村資産設計ファンド２０５０	8,155,232円
野村ターゲットデートファンド２０１６　２０２６－２０２８年目標型	4,591,048円
野村ターゲットデートファンド２０１６　２０２９－２０３１年目標型	2,207,380円
野村ターゲットデートファンド２０１６　２０３２－２０３４年目標型	1,468,374円
野村ターゲットデートファンド２０１６　２０３５－２０３７年目標型	1,119,781円
のむラップ・ファンド（やや保守型）	751,866,944円
のむラップ・ファンド（やや積極型）	753,607,019円
インデックス・ブレンド（タイプⅠ）	2,561,979円
インデックス・ブレンド（タイプⅡ）	1,618,879円
インデックス・ブレンド（タイプⅢ）	9,703,366円
インデックス・ブレンド（タイプⅣ）	1,612,128円
インデックス・ブレンド（タイプⅤ）	4,706,278円
野村６資産均等バランス	2,014,709,371円
野村外国債券（含む新興国）インデックス　Ｂコース（野村投資一任口座向け）	6,590,342,693円
世界６資産分散ファンド	62,824,345円
野村資産設計ファンド２０６０	3,710,897円
ＮＥＸＴ　ＦＵＮＤＳ　外国債券・ＦＴＳＥ世界国債インデックス（除く日本・為替ヘッジなし）連動型上場投信	8,320,240,157円
ファンドラップ（ウエルス・スクエア）外国債券	4,898,962,367円
野村外国債券インデックスファンドＶＡ（適格機関投資家専用）	6,266,666円
グローバル・インデックス・バランス２５ＶＡ（適格機関投資家専用）	1,137,831,496円
グローバル・インデックス・バランス５０ＶＡ（適格機関投資家専用）	183,370,788円
グローバル・インデックス・バランス４０ＶＡ（適格機関投資家専用）	1,274,005,168円
グローバル・インデックス・バランス６０ＶＡ（適格機関投資家専用）	776,990,912円
ワールド・インデックス・ファンドＶＡ安定型（適格機関投資家専用）	2,278,997円
ワールド・インデックス・ファンドＶＡバランス型（適格機関投資家専用）	8,770,099円
ワールド・インデックス・ファンドＶＡ積極型（適格機関投資家専用）	360,462円
野村インデックス・バランス６０ＶＡ（適格機関投資家専用）	3,145,149,314円
野村ワールド・インデックス・バランス３５ＶＡ（適格機関投資家専用）	8,634,618円
野村ワールド・インデックス・バランス５０ＶＡ（適格機関投資家専用）	49,163,972円
野村世界インデックス・バランス４０ＶＡ（適格機関投資家専用）	8,788,421円
野村グローバル・インデックス・バランス２５ＶＡ（適格機関投資家専用）	170,182,767円
野村グローバル・インデックス・バランス５０ＶＡ（適格機関投資家専用）	156,465,542円
野村グローバル・インデックス・バランス７５ＶＡ（適格機関投資家専用）	1,951,613,018円
野村世界バランス２５ＶＡ（適格機関投資家専用）	74,828,314円
ノムラ外国債券インデックスファンドＶＡ（適格機関投資家専用）	1,337,096,862円
ノムラＦＯＦｓ用インデックスファンド・外国債券（適格機関投資家専用）	742,760,576円
野村ＦＯＦｓ用・ターゲット・リターン・８資産バランス（２％コース向け）（適格機関投資家専用）	5,973,460円
バランスセレクト３０（確定拠出年金向け）	3,639,566円

バランスセレクト５０（確定拠出年金向け）	7,697,945円
バランスセレクト７０（確定拠出年金向け）	6,040,715円
野村外国債券パッシブファンド（確定拠出年金向け）	576,625,639円
マイバランス３０（確定拠出年金向け）	5,447,351,474円
マイバランス５０（確定拠出年金向け）	6,684,351,508円
マイバランス７０（確定拠出年金向け）	5,134,873,380円
野村外国債券インデックスファンド（確定拠出年金向け）	19,554,374,373円
マイバランスＤＣ３０	1,981,651,176円
マイバランスＤＣ５０	1,502,926,190円
マイバランスＤＣ７０	1,055,127,584円
野村ＤＣ外国債券インデックスファンド	7,888,052,043円
野村ＤＣ運用戦略ファンド	5,318,217,653円
野村ＤＣ運用戦略ファンド（マイルド）	629,319,190円
マイターゲット２０５０（確定拠出年金向け）	257,760,048円
マイターゲット２０３０（確定拠出年金向け）	456,778,981円
マイターゲット２０４０（確定拠出年金向け）	217,248,208円
野村世界６資産分散投信（ＤＣ）安定コース	18,339,717円
野村世界６資産分散投信（ＤＣ）インカムコース	41,196,693円
野村世界６資産分散投信（ＤＣ）成長コース	19,215,266円
野村資産設計ファンド（ＤＣ・つみたてＮＩＳＡ）２０３０	10,397,705円
野村資産設計ファンド（ＤＣ・つみたてＮＩＳＡ）２０４０	7,033,844円
野村資産設計ファンド（ＤＣ・つみたてＮＩＳＡ）２０５０	3,686,764円
マイターゲット２０３５（確定拠出年金向け）	130,196,333円
マイターゲット２０４５（確定拠出年金向け）	86,408,867円
マイターゲット２０５５（確定拠出年金向け）	48,036,917円
マイターゲット２０６０（確定拠出年金向け）	67,490,507円
野村資産設計ファンド（ＤＣ・つみたてＮＩＳＡ）２０６０	1,827,826円
マイターゲット２０６５（確定拠出年金向け）	15,749,212円
多資産分散投資ファンド（バランス１０）（確定拠出年金向け）	55,549,916円
みらいバランス・株式１０（富士通企業年金基金ＤＣ向け）	38,805円

＊は当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

４【委託会社等の概況】

（１）【資本金の額】

2022年2月末現在、17,180百万円

会社が発行する株式総数　　20,000,000株

発行済株式総数　　5,150,693株

過去５年間における主な資本金の額の増減：該当事項はありません。

（２）【事業の内容及び営業の状況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託者は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業に係る業務の一部及び投資助言業務を行っています。

委託者の運用する証券投資信託は2022年1月31日現在次の通りです(ただし、親投資信託を除きます。)。

種類	本数	純資産総額(百万円)
追加型株式投資信託	991	37,768,757
単位型株式投資信託	195	773,030
追加型公社債投資信託	14	6,313,919
単位型公社債投資信託	512	1,549,071
合計	1,712	46,404,778

（３）【その他】

(1)定款の変更

委託者の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

(2)訴訟事件その他の重要事項

委託者およびファンドに重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はありません。

5【委託会社等の経理状況】

1．委託会社である野村アセットマネジメント株式会社(以下「委託会社」という)の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という)、ならびに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年8月6日内閣府令第52号)により作成しております。
委託会社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号、以下「中間財務諸表等規則」という)、ならびに同規則第38条及び第57条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年8月6日内閣府令第52号)により作成しております。

2．財務諸表及び中間財務諸表の記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

3．委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度(2020年4月1日から2021年3月31日まで)の財務諸表ならびに中間会計期間(2021年4月1日から2021年9月30日まで)の中間財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人の監査及び中間監査を受けております。

（1）【貸借対照表】

		前事業年度 (2020年3月31日)		当事業年度 (2021年3月31日)	
区分	注記番号	金額(百万円)		金額(百万円)	
(資産の部)					
流動資産					
現金・預金			2,626		4,281
金銭の信託			41,524		35,912
有価証券			24,399		30,400
前払費用			106		167
未収入金			522		632
未収委託者報酬			23,936		24,499
未収運用受託報酬			4,336		4,347
その他			71		268
貸倒引当金			△14		△14
流動資産計			97,509		100,496
固定資産					
有形固定資産			645		2,666
建物	※２	295		1,935	
器具備品	※２	349		731	
無形固定資産			5,894		5,429
ソフトウェア		5,893		5,428	
その他		0		0	
投資その他の資産			16,486		16,487
投資有価証券		1,437		1,767	
関係会社株式		10,171		9,942	
従業員長期貸付金		16		-	

長期差入保証金		329		330	
長期前払費用		19		15	
前払年金費用		1,545		1,301	
繰延税金資産		2,738		3,008	
その他		229		122	
貸倒引当金		△0		-	
固定資産計			23,026		24,583
資産合計			120,536		125,080

		前事業年度 (2020年3月31日)		当事業年度 (2021年3月31日)	
区分	注記番号	金額(百万円)		金額(百万円)	
(負債の部)					
流動負債					
預り金			157		123
未払金			15,279		16,948
未払収益分配金		0		0	
未払償還金		3		8	
未払手数料		6,948		7,256	
関係会社未払金		7,262		8,671	
その他未払金		1,063		1,011	
未払費用	※1		10,290		9,171
未払法人税等			1,564		2,113
前受収益			26		22
賞与引当金			3,985		3,795
その他			67		-
流動負債計			31,371		32,175
固定負債					
退職給付引当金			3,311		3,299
時効後支払損引当金			572		580
資産除去債務			-		1,371
固定負債計			3,883		5,250
負債合計			35,254		37,425
(純資産の部)					
株主資本			85,270		87,596
資本金			17,180		17,180
資本剰余金			13,729		13,729
資本準備金		11,729		11,729	
その他資本剰余金		2,000		2,000	
利益剰余金			54,360		56,686
利益準備金		685		685	
その他利益剰余金		53,675		56,001	
別途積立金		24,606		24,606	
繰越利益剰余金		29,069		31,395	
評価・換算差額等			10		57
その他有価証券評価差額金			10		57
純資産合計			85,281		87,654
負債・純資産合計			120,536		125,080

（２）【損益計算書】

		前事業年度 (自　2019年4月1日 至　2020年3月31日)		当事業年度 (自　2020年4月1日 至　2021年3月31日)	
区分	注記番号	金額(百万円)		金額(百万円)	
営業収益					
委託者報酬			115,736		106,355
運用受託報酬			17,170		16,583
その他営業収益			340		428
営業収益計			133,247		123,367
営業費用					
支払手数料			39,435		34,739
広告宣伝費			1,006		1,005
公告費			-		0
調査費			26,833		24,506
調査費		5,696		5,532	
委託調査費		21,136		18,974	
委託計算費			1,342		1,358
営業雑経費			5,823		4,149
通信費		75		73	
印刷費		958		976	
協会費		92		88	
諸経費		4,696		3,011	
営業費用計			74,440		65,760
一般管理費					
給料			11,418		10,985
役員報酬		109		147	
給料・手当		7,173		7,156	
賞与		4,134		3,682	
交際費			86		35
旅費交通費			391		64
租税公課			1,029		1,121
不動産賃借料			1,227		1,147
退職給付費用			1,486		1,267
固定資産減価償却費			2,348		2,700
諸経費			10,067		10,739
一般管理費計			28,055		28,063
営業利益			30,751		29,542

		前事業年度 (自　2019年4月1日 至　2020年3月31日)		当事業年度 (自　2020年4月1日 至　2021年3月31日)	
区分	注記番号	金額(百万円)		金額(百万円)	
営業外収益					
受取配当金	※１	4,936		4,540	
受取利息		0		0	

金銭の信託運用益		-		1,698	
その他		309		447	
営業外収益計			5,246		6,687
営業外費用					
金銭の信託運用損		230		-	
投資事業組合等評価損		146		-	
時効後支払損引当金繰入額		18		13	
為替差損		23		26	
その他		23		32	
営業外費用計			443		72
経常利益			35,555		36,157
特別利益					
投資有価証券等売却益		21		71	
株式報酬受入益		59		48	
移転補償金		-		2,077	
特別利益計			81		2,197
特別損失					
投資有価証券等評価損		119		36	
関係会社株式評価損		1,591		582	
固定資産除却損	※２	67		105	
事務所移転費用		-		406	
特別損失計			1,778		1,129
税引前当期純利益			33,858		37,225
法人税、住民税及び事業税			9,896		11,239
法人税等調整額			△34		△290
当期純利益			23,996		26,276

（３）【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自　2019年4月１日　至　2020年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計	
						別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	17,180	11,729	2,000	13,729	685	24,606	30,723	56,014	86,924
当期変動額									
剰余金の配当							△25,650	△25,650	△25,650
当期純利益							23,996	23,996	23,996
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									

当期変動額合計	－	－	－	－	－	－	△1,653	△1,653	△1,653
当期末残高	17,180	11,729	2,000	13,729	685	24,606	29,069	54,360	85,270

(単位：百万円)

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	33	33	86,958
当期変動額			
剰余金の配当			△25,650
当期純利益			23,996
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△23	△23	△23
当期変動額合計	△23	△23	△1,676
当期末残高	10	10	85,281

当事業年度(自　2020年4月1日　至　2021年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計	
						別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	17,180	11,729	2,000	13,729	685	24,606	29,069	54,360	85,270
当期変動額									
剰余金の配当							△23,950	△23,950	△23,950
当期純利益							26,276	26,276	26,276
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	－	－	－	－	－	－	2,326	2,326	2,326
当期末残高	17,180	11,729	2,000	13,729	685	24,606	31,395	56,686	87,596

(単位：百万円)

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	10	10	85,281

当期変動額			
剰余金の配当			△23,950
当期純利益			26,276
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	46	46	46
当期変動額合計	46	46	2,372
当期末残高	57	57	87,654

[重要な会計方針]

１．有価証券の評価基準及び評価方法	(1) 子会社株式及び関連会社株式 … 移動平均法による原価法 (2) その他有価証券 時価のあるもの … 決算期末日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。) 時価のないもの … 移動平均法による原価法
２．金銭の信託の評価基準及び評価方法	時価法
３．固定資産の減価償却の方法	(1) 有形固定資産 定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)、並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。 主な耐用年数は以下の通りであります。 建物 6年 附属設備 6～15年 器具備品 4～15年 (2) 無形固定資産及び投資その他の資産 定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(５年)に基づく定額法によっております。
４．引当金の計上基準	(1) 貸倒引当金 一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。 (2) 賞与引当金 賞与の支払いに備えるため、支払見込額を計上しております。

	(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、退職一時金及び確定給付型企業年金について、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 ① 退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。 ② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法 確定給付型企業年金に係る数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生した事業年度の翌期から費用処理することとしております。また、退職一時金に係る数理計算上の差異は、発生した事業年度の翌期に一括して費用処理することとしております。 退職一時金及び確定給付型企業年金に係る過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生した事業年度から費用処理することとしております。 (4) 時効後支払損引当金 時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。
5．消費税等の会計処理方法	消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜き方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当期の費用として処理しております。
6．連結納税制度の適用	連結納税制度を適用しております。 なお、当社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」（実務対応報告第39号　2020年3月31日）第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号　2018年2月16日）第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

[会計上の見積りに関する注記]

該当事項はありません。

[未適用の会計基準等]

・「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号　2020年3月31日）

・「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号　2020年3月31日）

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

（2）適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定であります。

（3）当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当財務諸表の作成時において評価中であります。

・「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号　2019年7月4日）
・「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号　2019年7月4日）
・「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号　2019年7月4日）
・「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号　2020年3月31日）

（1）概要

国際的な会計基準の定めとの比較可能性を向上させるため、「時価の算定に関する会計基準」及び「時価の算定に関する会計基準の適用指針（以下「時価算定会計基準等」という。）が開発され、時価の算定方法に関するガイダンス等が定められました。時価算定会計基準等は次の項目の時価に適用されます。

・「金融商品に関する会計基準」における金融商品

また「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」が改訂され、金融商品の時価のレベルごとの内訳等の注記事項が定められました。

（2）適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定であります。

（3）当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当財務諸表の作成時において評価中であります。

[注記事項]

◇　貸借対照表関係

前事業年度末 (2020年3月31日)	当事業年度末 (2021年3月31日)
※１．関係会社に対する資産及び負債 区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは、次のとおりであります。 未払費用　1,296百万円 ※２．有形固定資産より控除した減価償却累計額 建物　761百万円 器具備品　2,347 合計　3,109	※１．関係会社に対する資産及び負債 区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは、次のとおりであります。 未払費用　1,256百万円 ※２．有形固定資産より控除した減価償却累計額 建物　346百万円 器具備品　643 合計　990

◇　損益計算書関係

前事業年度 (自　2019年4月１日 至　2020年3月31日)	当事業年度 (自　2020年4月１日 至　2021年3月31日)

※１．関係会社に係る注記 区分掲記されたもの以外で関係会社に対するものは、次のとおりであります。 受取配当金　4,931百万円 ※２．固定資産除却損 器具備品　7百万円 ソフトウェア　59 合計　67	※１．関係会社に係る注記 区分掲記されたもの以外で関係会社に対するものは、次のとおりであります。 受取配当金　4,334百万円 ※２．固定資産除却損 器具備品　2百万円 ソフトウェア　102 合計　105

◇　株主資本等変動計算書関係

前事業年度(自　2019年4月１日　至　2020年3月31日)

１．発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末株式数
普通株式	5,150,693株	－	－	5,150,693株

２．剰余金の配当に関する事項

（１）配当財産が金銭である場合における当該金銭の総額

2019年5月15日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。

普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	25,650百万円
配当の原資	利益剰余金
１株当たり配当額	4,980円
基準日	2019年3月31日
効力発生日	2019年6月28日

（２）基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2020年5月19日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。

普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	23,950百万円
配当の原資	利益剰余金
１株当たり配当額	4,650円
基準日	2020年3月31日
効力発生日	2020年6月30日

当事業年度(自　2020年4月１日　至　2021年3月31日)

１．発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末株式数
普通株式	5,150,693株	－	－	5,150,693株

２．剰余金の配当に関する事項

（１）配当財産が金銭である場合における当該金銭の総額

2020年5月19日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。

普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	23,950百万円
配当の原資	利益剰余金
１株当たり配当額	4,650円
基準日	2020年3月31日
効力発生日	2020年6月30日

（２）基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2021年5月14日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。

普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	26,268百万円
配当の原資	利益剰余金
１株当たり配当額	5,100円
基準日	2021年3月31日
効力発生日	2021年6月30日

◇　金融商品関係

前事業年度（自 2019年4月１日　至 2020年3月31日）

１．金融商品の状況に関する事項

（１）金融商品に対する取組方針

当社は、投資信託の運用を業として行っており、自社が運用する投資信託の商品性維持等を目的として、当該投資信託を特定金外信託を通じ保有しております。特定金外信託を通じ行っているデリバティブ取引については、保有する投資信託にかかる将来の為替及び価格の変動によるリスクの軽減を目的としているため、投資信託保有残高の範囲内で行うこととし、投機目的のためのデリバディブ取引は行わない方針であります。

なお、余資運用に関しては、譲渡性預金等安全性の高い金融資産で運用し、資金調達に関しては、親会社である野村ホールディングス株式会社及びその他の金融機関からの短期借入による方針であります。

（２）金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

特定金外信託を通じ保有している投資信託につきましては、為替変動リスクや価格変動リスクに晒されておりますが、その大部分については為替予約、株価指数先物、債券先物などのデリバティブ取引によりヘッジしております。また、株式につきましては、政策投資として、あるいは業務上の関係維持を目的として保有しておりますが、価格変動リスクに晒されております。有価証券及び投資有価証券並びに金銭の信託については財務部が管理しており、定期的に時価や発行体の財務状況を把握し、その内容を経営に報告しております。

デリバティブ取引の実行及び管理については、財務部及び運用調査本部で行っております。デリバティブ取引については、取引相手先として高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。財務部は月に一度デリバティブ取引の内容を含んだ財務報告を経営会議で行っております。

また、営業債権である未収委託者報酬は、投資信託約款に基づき、信託財産から委託者に対して支払われる信託報酬の未払金額であり、信託財産は受託銀行において分別保管されているため、信用リ

スクはほとんどないと認識しております。同じく営業債権である未収運用受託報酬は、投資顧問契約に基づき、運用受託者に対して支払われる報酬の未払金額であります。この未収運用受託報酬は、信託財産から運用受託者に対して支払われる場合は、信託財産が信託銀行において分別保管されているため、信用リスクはほとんどないと認識しており、顧客から直接運用受託者に対して支払われる場合は、当該顧客の信用リスクにさらされておりますが、顧客ごとに決済期日および残高を管理することにより、回収懸念の早期把握や回収リスクの軽減を図っております。

２．金融商品の時価等に関する事項

2020年3月31日における貸借対照表計上額、時価、及びこれらの差額については次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金・預金	2,626	2,626	-
(2)金銭の信託	41,524	41,524	-
(3)未収委託者報酬	23,936	23,936	-
(4)未収運用受託報酬	4,336	4,336	-
(5)有価証券及び投資有価証券	24,399	24,399	-
その他有価証券	24,399	24,399	-
資産計	96,823	96,823	-
(6)未払金	15,279	15,279	-
未払収益分配金	0	0	-
未払償還金	3	3	-
未払手数料	6,948	6,948	-
関係会社未払金	7,262	7,262	-
その他未払金	1,063	1,063	-
(7)未払費用	10,290	10,290	-
(8)未払法人税等	1,564	1,564	-
負債計	27,134	27,134	-

注1：金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1) 現金・預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 金銭の信託

信託財産は、主として投資信託、デリバティブ取引、その他の資産（コールローン・委託証拠金等）で構成されております。これらの時価について投資信託については基準価額、デリバティブ取引に関しては、上場デリバティブ取引は取引所の価格、為替予約取引は先物為替相場、店頭デリバティブ取引は取引先金融機関から提示された価格等によっております。また、その他の資産については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3)未収委託者報酬、(4)未収運用受託報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 有価証券及び投資有価証券

その他有価証券

譲渡性預金及びコマーシャル・ペーパーは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

(6) 未払金、(7) 未払費用、(8) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

注2：非上場株式等（貸借対照表計上額：投資有価証券1,437百万円、関係会社株式10,171百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュフローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。当事業年度において、非上場株式について2,416百万円（投資有価証券117百万円、関係会社株式2,298百万円）減損処理を行っております。なお、関係会社株式に係る評価損は、過年度に計上しておりました関係会社株式に対する投資損失引当金の戻入益707百万円と相殺し、関係会社株式評価損1,591百万円を特別損失に計上しております。

注3：金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
預金	2,626	-	-	-
金銭の信託	41,524	-	-	-
未収委託者報酬	23,936	-	-	-
未収運用受託報酬	4,336	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券	24,399	-	-	-
合計	96,823	-	-	-

当事業年度（自 2020年4月１日　至 2021年3月31日）

１．金融商品の状況に関する事項

（１）金融商品に対する取組方針

当社は、投資信託の運用を業として行っており、自社が運用する投資信託の商品性維持等を目的として、当該投資信託を特定金外信託を通じ保有しております。特定金外信託を通じ行っているデリバティブ取引については、保有する投資信託にかかる将来の為替及び価格の変動によるリスクの軽減を

目的としているため、投資信託保有残高の範囲内で行うこととし、投機目的のためのデリバティブ取引は行わない方針であります。

なお、余資運用に関しては、譲渡性預金等安全性の高い金融資産で運用し、資金調達に関しては、親会社である野村ホールディングス株式会社及びその他の金融機関からの短期借入による方針であります。

（２）金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

特定金外信託を通じ保有している投資信託につきましては、為替変動リスクや価格変動リスクに晒されておりますが、その大部分については為替予約、株価指数先物、債券先物などのデリバティブ取引によりヘッジしております。また、株式につきましては、政策投資として、あるいは業務上の関係維持を目的として保有しておりますが、価格変動リスクに晒されております。有価証券及び投資有価証券並びに金銭の信託については財務部が管理しており、定期的に時価や発行体の財務状況を把握し、その内容を経営に報告しております。

デリバティブ取引の実行及び管理については、財務部及び運用部で行っております。デリバティブ取引については、取引相手先として高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。財務部は月に一度デリバティブ取引の内容を含んだ財務報告を経営会議で行っております。

また、営業債権である未収委託者報酬は、投資信託約款に基づき、信託財産から委託者に対して支払われる信託報酬の未払金額であり、信託財産は受託銀行において分別保管されているため、信用リスクはほとんどないと認識しております。同じく営業債権である未収運用受託報酬は、投資顧問契約に基づき、運用受託者に対して支払われる報酬の未払金額であります。この未収運用受託報酬は、信託財産から運用受託者に対して支払われる場合は、信託財産が信託銀行において分別保管されているため、信用リスクはほとんどないと認識しており、顧客から直接運用受託者に対して支払われる場合は、当該顧客の信用リスクにさらされておりますが、顧客ごとに決済期日および残高を管理することにより、回収懸念の早期把握や回収リスクの軽減を図っております。

２．金融商品の時価等に関する事項

2021年3月31日における貸借対照表計上額、時価、及びこれらの差額については次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金・預金	4,281	4,281	-
(2)金銭の信託	35,912	35,912	-
(3)未収委託者報酬	24,499	24,499	-
(4)未収運用受託報酬	4,347	4,347	-
(5)有価証券及び投資有価証券	30,400	30,400	-
その他有価証券	30,400	30,400	-
資産計	99,441	99,441	-
(6)未払金	16,948	16,948	-
未払収益分配金	0	0	-

未払償還金	8	8	-
未払手数料	7,256	7,256	-
関係会社未払金	8,671	8,671	-
その他未払金	1,011	1,011	-
(7)未払費用	9,171	9,171	-
(8)未払法人税等	2,113	2,113	-
負債計	28,233	28,233	-

注1：金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1) 現金・預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 金銭の信託

信託財産は、主として投資信託、デリバティブ取引、その他の資産（コールローン・委託証拠金等）で構成されております。これらの時価について投資信託については基準価額、デリバティブ取引に関しては、上場デリバティブ取引は取引所の価格、為替予約取引は先物為替相場、店頭デリバティブ取引は取引先金融機関から提示された価格等によっております。また、その他の資産については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3)未収委託者報酬、(4)未収運用受託報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 有価証券及び投資有価証券

その他有価証券

譲渡性預金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

(6) 未払金、(7) 未払費用、(8) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

注2：非上場株式等（貸借対照表計上額：投資有価証券1,767百万円、関係会社株式9,942百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュフローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。なお、当事業年度において、非上場株式について618百万円（投資有価証券35百万円、関係会社株式582百万円）減損処理を行っております。

注3：金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
預金	4,281	-	-	-
金銭の信託	35,912	-	-	-
未収委託者報酬	24,499	-	-	-
未収運用受託報酬	4,347	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券	30,400	-	-	-
合計	99,441	-	-	-

◇　有価証券関係

前事業年度　（自　2019年4月１日　至　2020年3月31日）

１．売買目的有価証券(2020年3月31日)

該当事項はありません。

２．満期保有目的の債券(2020年3月31日)

該当事項はありません。

３．子会社株式及び関連会社株式(2020年3月31日)

該当事項はありません。

４．その他有価証券(2020年3月31日)

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	-	-	-
小計	-	-	-
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
譲渡性預金	4,400	4,400	-
コマーシャル・ペーパー	19,999	19,999	
小計	24,399	24,399	-
合計	24,399	24,399	-

５．事業年度中に売却したその他有価証券（自　2019年4月１日　至　2020年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度　（自　2020年4月１日　至　2021年3月31日）

１．売買目的有価証券(2021年3月31日)

該当事項はありません。

２．満期保有目的の債券(2021年3月31日)

該当事項はありません。

３．子会社株式及び関連会社株式(2021年3月31日)

該当事項はありません。

４．その他有価証券(2021年3月31日)

区分	貸借対照表計上額（百万円）	取得原価（百万円）	差額（百万円）
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	-	-	-
小計	-	-	-
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
譲渡性預金	30,400	30,400	-
小計	30,400	30,400	-
合計	30,400	30,400	-

５．事業年度中に売却したその他有価証券（自　2020年4月1日　至　2021年3月31日）

該当事項はありません。

◇　退職給付関係

前事業年度(自　2019年4月１日　至　2020年3月31日)
１．採用している退職給付制度の概要 当社は、確定給付型の制度として確定給付型企業年金制度及び退職一時金制度を、また確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。 ２．確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

退職給付債務の期首残高	23,551 百万円
勤務費用	1,034
利息費用	154
数理計算上の差異の発生額	△138
退職給付の支払額	△858
その他	17
退職給付債務の期末残高	23,761

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

年金資産の期首残高	17,469 百万円
期待運用収益	436
数理計算上の差異の発生額	△393
事業主からの拠出額	566
退職給付の支払額	△666
年金資産の期末残高	17,413

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

積立型制度の退職給付債務	20,462百万円
年金資産	△17,413
	3,048
非積立型制度の退職給付債務	3,299
未積立退職給付債務	6,347
未認識数理計算上の差異	△4,764
未認識過去勤務費用	185
貸借対照表上に計上された負債と資産の純額	1,766
退職給付引当金	3,311
前払年金費用	△1,545
貸借対照表上に計上された負債と資産の純額	1,766

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	1,034 百万円
利息費用	154
期待運用収益	△436
数理計算上の差異の費用処理額	572
過去勤務費用の費用処理額	△35
確定給付制度に係る退職給付費用	1,289

(5) 年金資産に関する事項

①年金資産の主な内容

年金資産合計に対する主な分類毎の比率は、次の通りです。

債券	57%
株式	24%
生保一般勘定	12%
生保特別勘定	7%
その他	0%
合計	100%

②長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎

確定給付型企業年金制度の割引率	0.6%
退職一時金制度の割引率	0.5%
長期期待運用収益率	2.5%

３．確定拠出制度
当社の確定拠出制度への要拠出額は、202百万円でした。

当事業年度(自　2020年4月1日　至　2021年3月31日)

１．採用している退職給付制度の概要
当社は、確定給付型の制度として確定給付型企業年金制度及び退職一時金制度を、また確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。

２．確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

退職給付債務の期首残高	23,761 百万円
勤務費用	1,016
利息費用	139
数理計算上の差異の発生額	△893
退職給付の支払額	△781
その他	28
退職給付債務の期末残高	23,270

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

年金資産の期首残高	17,413 百万円
期待運用収益	409
数理計算上の差異の発生額	1,328
事業主からの拠出額	824
退職給付の支払額	△626
年金資産の期末残高	19,349

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

積立型制度の退職給付債務	19,959 百万円
年金資産	△19,349
	610
非積立型制度の退職給付債務	3,311
未積立退職給付債務	3,921
未認識数理計算上の差異	△2,074
未認識過去勤務費用	151
貸借対照表上に計上された負債と資産の純額	1,998
退職給付引当金	3,299
前払年金費用	△1,301
貸借対照表上に計上された負債と資産の純額	1,998

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	1,016 百万円
利息費用	139
期待運用収益	△409
数理計算上の差異の費用処理額	469
過去勤務費用の費用処理額	△34
確定給付制度に係る退職給付費用	1,182

(5) 年金資産に関する事項
①年金資産の主な内容
年金資産合計に対する主な分類毎の比率は、次の通りです。

債券	52%
株式	30%
生保一般勘定	11%
生保特別勘定	7%
その他	0%
合計	100%

②長期期待運用収益率の設定方法
年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(6) 数理計算上の計算基礎に関する事項
当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎

確定給付型企業年金制度の割引率	0.8%
退職一時金制度の割引率	0.5%
長期期待運用収益率	2.5%

3．確定拠出制度
当社の確定拠出制度への要拠出額は、206百万円でした。

◇　税効果会計関係

前事業年度末 (2020年3月31日)	当事業年度末 (2021年3月31日)
1．繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳	1．繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	百万円
賞与引当金	1,235
退職給付引当金	1,026
関係会社株式評価減	762
未払事業税	285
投資有価証券評価減	462
減価償却超過額	171
時効後支払損引当金	177
関係会社株式売却損	148
ゴルフ会員権評価減	167
未払社会保険料	97
その他	219
繰延税金資産小計	4,754
評価性引当額	△1,532
繰延税金資産合計	3,222
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	4
前払年金費用	478
繰延税金負債合計	483
繰延税金資産の純額	2,738

繰延税金資産	百万円
賞与引当金	1,176
退職給付引当金	1,022
関係会社株式評価減	784
未払事業税	430
投資有価証券評価減	428
減価償却超過額	223
時効後支払損引当金	179
関係会社株式売却損	148
ゴルフ会員権評価減	135
未払社会保険料	95
その他	341
繰延税金資産小計	4,968
評価性引当額	△1,530
繰延税金資産合計	3,437
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	25
前払年金費用	403
繰延税金負債合計	429
繰延税金資産の純額	3,008

2．法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率	31.0%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.0%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△4.4%
タックスヘイブン税制	2.6%
外国税額控除	△0.7%
外国子会社からの受取配当に係る外国源泉税	0.2%
その他	0.4%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.1%

2．法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率	31.0%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.0%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△3.5%
タックスヘイブン税制	1.9%
外国税額控除	△0.5%
外国子会社からの受取配当に係る外国源泉税	0.2%
その他	0.3%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.4%

◇　資産除去債務関係

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

１．当該資産除去債務の概要

本社の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

２．当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を当該不動産賃貸借契約期間とし、割引率は0.0%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

３．当該資産除去債務の総額の増減

（単位：百万円）

	前事業年度 自　2019年4月 1日 至　2020年3月31日	当事業年度 自　2020年4月 1日 至　2021年3月31日
期首残高	-	-
有形固定資産の取得に伴う増加	-	1,371
時の経過による調整額	-	-
期末残高	-	1,371

◇　セグメント情報等

前事業年度(自　2019年4月１日　至　2020年3月31日)

１．セグメント情報

当社は投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

２．関連情報

（１）製品・サービスごとの情報

当社の製品・サービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

（２）地域ごとの情報

① 売上高

本邦の外部顧客からの営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

② 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

（３）主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、主要な顧客ごとの営業収益の記載を省略しております。

当事業年度(自　2020年4月１日　至　2021年3月31日)

１．セグメント情報

当社は投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

２．関連情報

（１）製品・サービスごとの情報

当社の製品・サービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

（２）地域ごとの情報

① 売上高

本邦の外部顧客からの営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

② 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

（３）主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、主要な顧客ごとの営業収益の記載を省略しております。

◇　関連当事者情報

前事業年度(自　2019年4月１日　至　2020年3月31日)

１．関連当事者との取引

（ア）親会社及び法人主要株主等

（イ）子会社等

該当はありません。

（ウ）兄弟会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
親会社の子会社	野村證券株式会社	東京都中央区	10,000(百万円)	証券業	―	当社投資信託の募集の取扱及び売出の取扱ならびに投資信託に係る事務代行の委託等 役員の兼任	投資信託に係る事務代行手数料の支払（*1）	31,378	未払手数料	5,536
							コマーシャル・ペーパーの購入(*2)	20,000	有価証券	19,999
							有価証券受取利息	0	その他営業外収益	0

（エ）役員及び個人主要株主等

該当はありません。

(注) 1．上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
2．取引条件及び取引条件の決定方針等
(*1） 投資信託に係る事務代行手数料については、商品性等を勘案し総合的に決定しております。
(*2） コマーシャル・ペーパーの購入については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。

2．親会社又は重要な関連会社に関する注記

（1）親会社情報

野村ホールディングス㈱（東京証券取引所、名古屋証券取引所、シンガポール証券取引所、ニューヨーク証券取引所に上場）

（2）重要な関連会社の要約財務諸表

該当はありません。

当事業年度(自　2020年4月１日　至　2021年3月31日)

1．関連当事者との取引

（ア）親会社及び法人主要株主等

該当はありません。

（イ）子会社等

該当はありません。

（ウ）兄弟会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
親会社の子会社	野村證券株式会社	東京都中央区	10,000(百万円)	証券業	―	当社投資信託の募集の取扱及び売出の取扱ならびに投資信託に係る事務代行の委託等 役員の兼任	投資信託に係る事務代行手数料の支払（*1）	26,722	未払手数料	5,690
							コマーシャル・ペーパーの償還(*2)	20,000	有価証券	-
							有価証券受取利息	0	その他営業外収益	0

（エ）役員及び個人主要株主等

該当はありません。

(注) 1．上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
2．取引条件及び取引条件の決定方針等
(*1） 投資信託に係る事務代行手数料については、商品性等を勘案し総合的に決定しております。

（*２） コマーシャル・ペーパーについては、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。

２．親会社又は重要な関連会社に関する注記

（１）親会社情報

野村ホールディングス㈱（東京証券取引所、名古屋証券取引所、シンガポール証券取引所、ニューヨーク証券取引所に上場）

（２）重要な関連会社の要約財務諸表

該当はありません。

◇　１株当たり情報

前事業年度 (自　2019年4月1日 至　2020年3月31日)	当事業年度 (自　2020年4月1日 至　2021年3月31日)
１株当たり純資産額　16,557円31銭 １株当たり当期純利益　4,658円88銭	１株当たり純資産額　17,018円01銭 １株当たり当期純利益　5,101円61銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。 １株当たり当期純利益の算定上の基礎 損益計算書上の当期純利益　23,996百万円 普通株式に係る当期純利益　23,996百万円 普通株主に帰属しない金額の主要な内訳 該当事項はありません。 普通株式の期中平均株式数　5,150,693株	潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。 １株当たり当期純利益の算定上の基礎 損益計算書上の当期純利益　26,276百万円 普通株式に係る当期純利益　26,276百万円 普通株主に帰属しない金額の主要な内訳 該当事項はありません。 普通株式の期中平均株式数　5,150,693株

中間財務諸表

◇中間貸借対照表

		2021年9月30日現在
区分	注記番号	金額(百万円)
(資産の部)		
流動資産		
現金・預金		2,226
金銭の信託		36,349
有価証券		11,600
未収委託者報酬		26,924
未収運用受託報酬		4,497
その他		1,176
貸倒引当金		△15
流動資産計		82,759
固定資産		
有形固定資産	※１	2,005
無形固定資産		5,512
ソフトウェア		5,511

その他		0
投資その他の資産		15,622
投資有価証券		1,949
関係会社株式		9,864
前払年金費用		1,305
繰延税金資産		1,951
その他		551
固定資産計		23,140
資産合計		105,899

		2021年9月30日現在
区分	注記番号	金額(百万円)
(負債の部)		
流動負債		
未払金		12,617
未払収益分配金		0
未払償還金		5
未払手数料		8,203
関係会社未払金		3,481
その他未払金	※２	925
未払費用		9,068
未払法人税等		1,282
賞与引当金		1,966
資産除去債務		296
その他		150
流動負債計		25,381
固定負債		
退職給付引当金		3,265
時効後支払損引当金		588
資産除去債務		1,123
固定負債計		4,976
負債合計		30,358
(純資産の部)		
株主資本		75,467
資本金		17,180
資本剰余金		13,729
資本準備金		11,729
その他資本剰余金		2,000
利益剰余金		44,557
利益準備金		685
その他利益剰余金		43,872
別途積立金		24,606
繰越利益剰余金		19,265
評価・換算差額等		74
その他有価証券評価差額金		74
純資産合計		75,541
負債・純資産合計		105,899

◇中間損益計算書

		自　2021年4月 1日 至　2021年9月30日
区分	注記番号	金額(百万円)
営業収益		
委託者報酬		57,049
運用受託報酬		8,278
その他営業収益		219

営業収益計		65,547
営業費用		
支払手数料		19,265
調査費		12,882
その他営業費用		2,443
営業費用計		34,591
一般管理費	※1	14,589
営業利益		16,366
営業外収益	※2	4,136
営業外費用	※3	262
経常利益		20,241
特別利益	※4	49
特別損失	※5	507
税引前中間純利益		19,782
法人税、住民税及び事業税		4,594
法人税等調整額		1,049
中間純利益		14,139

◇中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間(自　2021年4月1日　至　2021年9月30日)

（単位：百万円）

	株主資本								
		資本剰余金			利益剰余金				
						その他利益剰余金			
	資本金	資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	別途積立金	繰越利益剰余金	利益剰余金合計	株主資本合計
当期首残高	17,180	11,729	2,000	13,729	685	24,606	31,395	56,686	87,596
当中間期変動額									
剰余金の配当							△26,268	△26,268	△26,268
中間純利益							14,139	14,139	14,139
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）									
当中間期変動額合計	－	－	－	－	－	－	△12,129	△12,129	△12,129

当中間期末残高	17,180	11,729	2,000	13,729	685	24,606	19,265	44,557	75,467

（単位：百万円）

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	57	57	87,654
当中間期変動額			
剰余金の配当			△26,268
中間純利益			14,139
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	16	16	16
当中間期変動額合計	16	16	△12,112
当中間期末残高	74	74	75,541

[重要な会計方針]

1　有価証券の評価基準及び評価方法	(1) 子会社株式及び関連会社株式…移動平均法による原価法 (2) その他有価証券 時価のあるもの…中間決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。） 時価のないもの…移動平均法による原価法
2　運用目的の金銭の信託の評価基準及び評価方法	時価法によっております。
3　固定資産の減価償却の方法	(1) 有形固定資産 定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)、並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。 (2) 無形固定資産及び投資その他の資産 定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。
4　引当金の計上基準	(1) 貸倒引当金 債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率等により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。 (2) 賞与引当金 賞与の支払に備えるため、支払見込額を計上しております。

	(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、退職一時金及び確定給付型企業年金について、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。 ① 退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。 ② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法 確定給付型企業年金に係る数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生した事業年度の翌期から費用処理することとしております。また、退職一時金に係る数理計算上の差異は、発生した事業年度の翌期に一括して費用処理することとしております。 退職一時金及び確定給付型企業年金に係る過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生した事業年度から費用処理することとしております。 (4) 時効後支払損引当金 時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。
5　収益及び費用の計上基準	当社は、資産運用サービスから委託者報酬、運用受託報酬を稼得しております。これらには成功報酬が含まれる場合があります。 ①　委託者報酬 委託者報酬は、投資信託の信託約款に基づき日々の純資産総額に対する一定割合として認識され、確定した報酬を投資信託によって主に年４回、もしくは年２回受取ります。当該報酬は期間の経過とともに履行義務が充足されるという前提に基づき、投資信託の運用期間にわたり収益として認識しております。 ②　運用受託報酬 運用受託報酬は、投資顧問契約に基づき契約期間の純資産総額等に対する一定割合として認識され、確定した報酬を顧問口座によって主に年４回、もしくは年２回受取ります。当該報酬は期間の経過とともに履行義務が充足されるという前提に基づき、顧問口座の運用期間にわたり収益として認識しております。 ③　成功報酬 成功報酬は、対象となる投資信託または顧問口座の特定のベンチマークまたはその他のパフォーマンス目標を上回る超過運用益に対する一定割合として認識されます。当該報酬は成功報酬を受領する権利が確定した時点で収益として認識しております。
6　消費税等の会計処理	消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜き方式によっております。
7　連結納税制度の適用	連結納税制度を適用しております。 なお、当社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」（実務対応報告第39号　2020年3月31日）第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号　2018年2月16日）第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

[会計方針の変更]

（収益認識に関する会計基準等の適用）
「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号　2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を当中間会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しています。
これにより、営業外収益に計上しておりますシステム利用サービスに係る収益について、従来は、当該システム利用サービスに係るシステム関連費用を控除し、純額で認識しておりましたが、控除せず、総額で収益を認識する方法に変更しております。
収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当中間会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当中間会計期間の期首の繰越利益剰余金に反映させ、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。
これによる中間財務諸表に与える影響は軽微であります。

（時価の算定に関する会計基準の適用）
「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を当中間会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-２項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用しております。これによる中間財務諸表に与える影響はありません。
また、「金融商品関係」注記において、金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項等の注記を行うこととしました。

[注記事項]

◇中間貸借対照表関係

2021年9月30日現在
※１　有形固定資産の減価償却累計額 1,136百万円 ※２　消費税等の取扱い 仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、金額的重要性が乏しいため、流動負債の「その他未払金」に含めて表示しております。

◇中間損益計算書関係

自　2021年4月 1日 至　2021年9月30日	
※１　減価償却実施額	
有形固定資産	286百万円
無形固定資産	1,006百万円
※２　営業外収益のうち主要なもの	
受取配当金	3,530百万円
※３　営業外費用のうち主要なもの	
金銭の信託運用損	71百万円
時効後支払損引当金繰入	10百万円
※４　特別利益の内訳	
投資有価証券等売却益	26百万円
株式報酬受入益	23百万円

※５　特別損失の内訳

投資有価証券等売却損	0百万円
関係会社株式評価損	77百万円
固定資産除却損	374百万円
事務所移転費用	54百万円

◇中間株主資本等変動計算書関係

自　2021年4月 1日
至　2021年9月30日

１　発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当中間会計期間末
普通株式	5,150,693株	―	―	5,150,693株

２　配当に関する事項

配当金支払額

2021年5月14日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

(1) 配当金の総額	26,268百万円
(2) 1株当たり配当額	5,100円
(3) 基準日	2021年3月31日
(4) 効力発生日	2021年6月30日

◇金融商品関係

１．金融商品の時価等に関する事項

2021年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価、及びこれらの差額については次のとおりです。

(単位：百万円)

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
(1)金銭の信託	36,349	36,349	-
資産計	36,349	36,349	-

（注）1　現金・預金、未収委託者報酬、未収運用受託報酬、有価証券、未払金、未払費用、未払法人税等は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

（注）2　投資有価証券及び関係会社株式は、市場価格のない株式等及び組合出資金等であることから、上表には含まれておりません。当該金融商品の中間貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	当中間会計期間（百万円）
市場価格のない株式等（※）1，2	10,176
組合出資金等	1,637
合計	11,814

（※）1　市場価格のない株式等には非上場株式等が含まれております。

（※）2　非上場株式等について、当中間会計期間において77百万円減損処理を行っております。

２．金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3

つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接または間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

（1）時価で中間貸借対照表に計上している金融商品

2021年9月30日現在

	時価（百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金銭の信託（運用目的・その他）（※）	-	2,452	-	2,452
合計	-	2,452	-	2,452

（※）時価算定適用指針第26項に従い経過措置を適用し、投資信託を主要な構成物とする金銭の信託33,897百万円は表中に含まれておりません。

（2）時価で中間貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

該当事項はありません。

（注）時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

金銭の信託

信託財産は、主として投資信託、デリバティブ取引、その他の資産（コールローン・委託証拠金等）で構成されております。

信託財産を構成する金融商品の時価について、投資信託は基準価額、デリバティブ取引に関しては、上場デリバティブ取引は取引所の価格、為替予約取引は先物為替相場、店頭デリバティブ取引は取引先金融機関から提示された価格等によっております。また、その他の資産については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

◇有価証券関係

当中間会計期間末　（2021年9月30日）

１．満期保有目的の債券(2021年9月30日)

該当事項はありません。

２．子会社株式及び関連会社株式(2021年9月30日)

市場価格のない子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

	中間貸借対照表計上額（百万円）
子会社株式	9,758
関連会社株式	106

合計	9,864

これらについては市場価格がないことから、貸借対照表日における時価及び貸借対照表計上額と当該時価との差額の記載は省略しております。

３．その他有価証券(2021年9月30日)

区分	中間貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
譲渡性預金	11,600	11,600	-
小計	11,600	11,600	-
合計	11,600	11,600	-

◇資産除去債務関係

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

当該資産除去債務の総額の増減　(単位：百万円)

	自　2021年4月 1日 至　2021年9月30日
期首残高	1,371
有形固定資産の取得に伴う増加	48
時の経過による調整額	-
中間期末残高	1,419

◇収益認識に関する注記

１．顧客との契約から生じる収益を分解した情報

	自　2021年4月 1日 至　2021年9月30日
委託者報酬	57,003百万円
運用受託報酬	8,273百万円
成功報酬（注）	51百万円
その他営業収益	219百万円
合計	65,547百万円

（注）成功報酬は、中間損益計算書において委託者報酬または運用受託報酬に含めて表示しております。

２．顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

[重要な会計方針] ５　収益及び費用の計上基準に記載のとおりであります。

３．顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当中間会計期間末において存在する顧客との契約から当中間会計期間の末日後に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

◇セグメント情報等

当中間会計期間(自　2021年4月1日　至　2021年9月30日)

１．セグメント情報

当社は投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

２．関連情報

(1) 製品・サービスごとの情報

当社の製品・サービス区分の決定方法は、中間損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

(2) 地域ごとの情報

① 売上高

本邦の外部顧客からの営業収益に区分した金額が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

② 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

(3) 主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、中間損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、主要な顧客ごとの営業収益の記載を省略しております。

◇１株当たり情報

自　2021年4月 1日 至　2021年9月30日
１株当たり純資産額　14,666円31銭 １株当たり中間純利益　2,745円08銭 (注) １.潜在株式調整後１株当たり中間純利益につきましては、新株予約権付社債等潜在株式がないため、記載しておりません。 ２.１株当たり中間純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。 中間純利益　14,139百万円 普通株主に帰属しない金額　― 普通株式に係る中間純利益　14,139百万円 期中平均株式数　5,150千株

独立監査人の監査報告書

２０２１年6月7日

野村アセットマネジメント株式会社
取　締　役　会　　御　中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	亀　井　　純　子
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	津　村　　健二郎
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	水　永　　真太郎

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第１９３条の２第１項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている野村アセットマネジメント株式会社の２０２０年４月１日から２０２１年3月３１日までの第６２期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、野村アセットマネジメント株式会社の２０２１年3月３１日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成すること

が適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　　上

(注)　1．上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2．XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

２０２１年１１月２４日

野村アセットマネジメント株式会社
取　締　役　会　　御　中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	湯　原　　尚
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	津　村　健二郎
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	水　永　真太郎

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第１９３条の２第１項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている野村アセットマネジメント株式会社の２０２１年４月１日から２０２２年３月３１日までの第６３期事業年度の中間会計期間（２０２１年４月１日から２０２１年９月３０日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、野村アセットマネジメント株式会社の２０２１年９月３０日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（２０２１年４月１日から２０２１年９月３０日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判

断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。

・中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。

・経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。

・経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　　上

(注)　1．上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
2．XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

２０２２年2月１８日

野村アセットマネジメント株式会社

取 締 役 会　御　　中

EY新日本有限責任監査法人

東　京　事　務　所

指定有限責任社員
業務執行社員　　公認会計士　　伊　藤　志　保

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第１９３条の２第１項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているマイターゲット2065（確定拠出年金向け）の２０２１年6月２９日から２０２１年１２月２８日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、マイターゲット2065（確定拠出年金向け）の２０２１年１２月２８日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（２０２１年6月２９日から２０２１年１２月２８日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、野村アセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・　不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
・　中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
・　経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
・　経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
・　中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

野村アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　　上

(注)　1.　上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
　　2.　XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。